

2019年度自己評価（2019年度の振り返り）

○ 重点目標

- ・園児が自ら進んで挨拶し、自分の身の回りのことを自分でできるようにする。同時に、人のために動く心地よさを味わえるようにする。（基本的生活習慣の確立）
- ・園児が生き生きと十分に遊びこめるような環境を工夫するとともに、広い園庭やホールを使って体全体を十分に動かす遊びに力を入れる。また、子ども自身が主体的に考え発信できるようにする。（保育内容の充実）
- ・同じ年頃の子どもたちと触れ合う機会の少ない幼児が子ども同士で遊び合えるような環境を提供する。2歳児を持つ保護者の子育て不安を軽減し、ゆとりをもって子どもとかかわれるように支援する。（2歳児保育）
- ・入園前の子どもに対しては月1回の親子の教室、乳児を含めた未就園児親子が集える月2回の「遊びの広場ののんのん」、毎週水曜日午後に園庭を開放する園庭開放など、園を活用した事業を展開する。（子育て支援）

○ 自己評価

・生活習慣の確立と保育内容について

人と人の関係が希薄になりつつある社会の中で、挨拶は人のかかわりを作るきっかけになると考える。慣れ親しんだ先生や友達とは挨拶を交わす習慣ができた。誰とでも自分から挨拶できるように働きかけたい。広い園庭を使って、外遊びの時間確保を意識して行ってきた。昨年からは、仲間と一緒に体を使って遊ぶことのできる鬼遊びに積極的に取り組んできたが、学年を超えて遊びが伝承され、子どもの動きが敏捷になり持久力も高まったと思われる。また、当番活動や話し合いの時間を工夫することで、自分の考えを表現する力が育まれたとともに、周りの人のことを考えて行動することができるようになってきたと考える。

・東大寺学園幼稚園の特色を生かして

豊かな自然と世界遺産に囲まれた環境を生かし、東大寺とかかわった行事を「当園ならではの特色」ととらえている。毎月の大仏殿へのお参りを通して大仏様を身近に感じ、大きな力で見守られていると思うことで、気持ちを静め裏表のない素直な心が育つと考えている。

東大寺学園中学生と年長児との交流は例年通り田植えと稲刈りで実施した。自然の中で中学生と触れ合う貴重な体験となっている。

外部講師の協力を得て、毎週1回の英語の時間、毎月1回の茶道の時間を設けている。子どもたちにとって楽しく、日常では味わえない経験となっている。講師と話し合う機会を設け、担任と連携しながら効果的な指導ができるようにしていきたい。

・2歳児保育について

2歳児保育バンビクラスは、「子どもを主体とした楽しい教室」を目指して5年目を終えた。2歳児が集団の中でいろいろな経験を通してのびのびと楽しみながら育つ姿が見られた。保護者にも好評で、母親が子どもの成長を喜び楽しく子育てするための活力となっていると思われるので、保育内容をさらに充実させ、次年度以降も継続していく。

・子育て支援について

5月から始めた「遊びの広場ののんのん」は幼稚園・保育園に所属していない乳幼児が多く集まり、子どもたちが安心して過ごせる場として好評だった。保護者同士の情報交換の場にもなり、乳幼児を持つ母親にとっても心地よい時間となったようだ。入園を控えた幼児対象の未就園児教室も幼稚園を体験できる場として盛況だった。毎週水曜日午後の園庭開放は近隣の親子に利用され、年齢の低い乳幼児が広い園庭で安心して遊ぶ姿が見られる。